

1月のくらし

新生活の設計  
冬の事故防止  
三学期を迎えた子どもの指

# 広報かわにし

発行所 川西町役場 編集人 星名四郎  
発行者 川西町 印刷所 星白1 名南部5 四風5 郎社円  
(町長 中村壮吉)

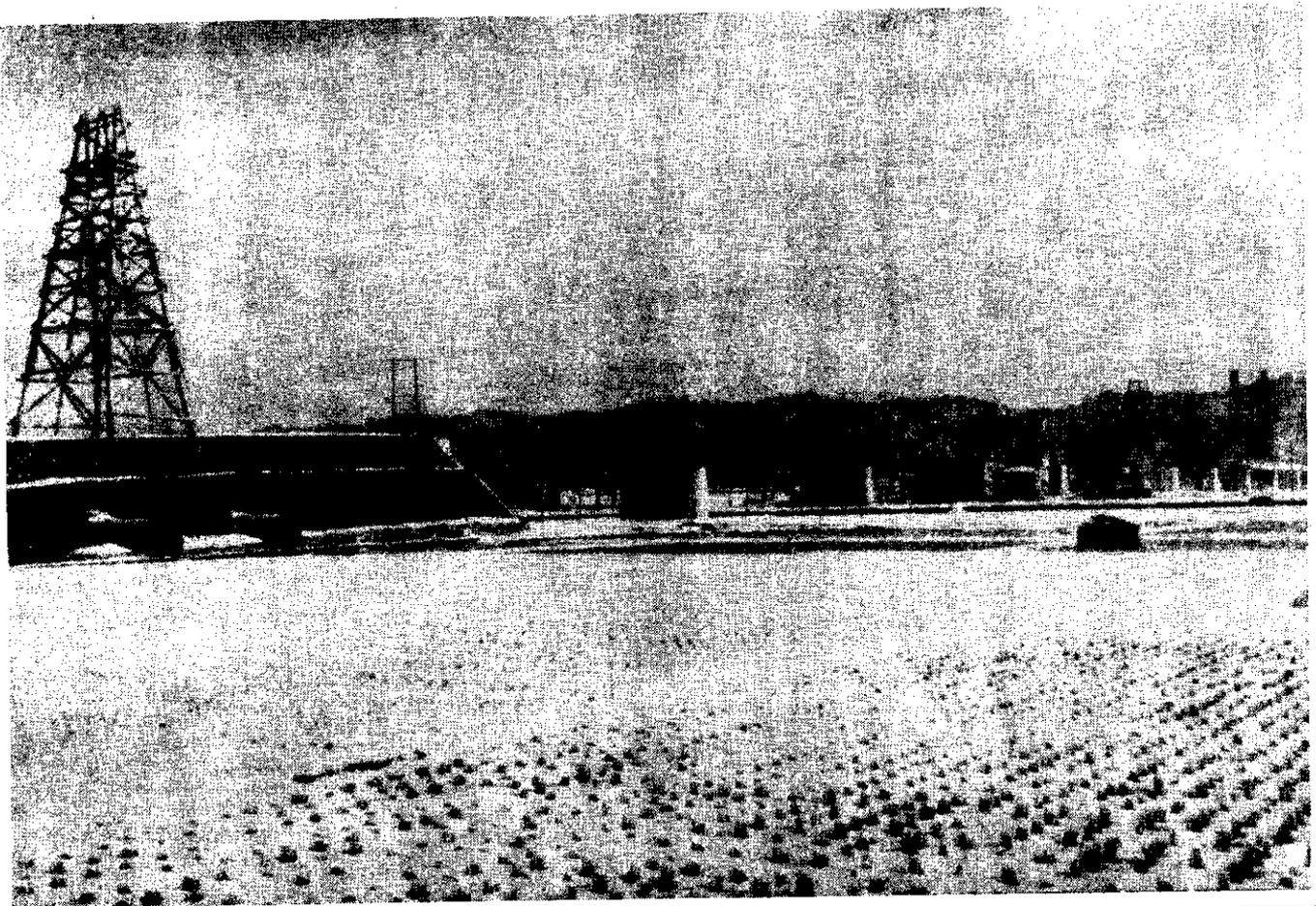
一人口の動き

1月1日現在

男 6,289人  
女 6,627人  
計 12,916人  
世帯数 2,640世帯

## 謹賀新年

川西町長 中村 壮吉



### 迎春

おこそかな  
一九六四年の夜明け  
純白の大地に  
いま、新しい太陽がのぼる

処女雪に  
かけろう燃えて  
栄橋の架橋は  
いま、急ピッチですすむ

なつかしの  
木落の渡たしよさらば  
古き良き時代が  
いま、新しい時代に変わる

### 一月の行事

- 一日 元旦
- 四日 御用始め
- 六日 小寒 消防出ぞめ式
- 七日
- 八日 初議会
- 十日 鏡開き 蔵開き
- 中仙田ニコニコ会
- 十四日 橘地区月例妊婦相談
- 成人の日
- お年玉はがき抽籤会
- 十五日 町農業委員会
- 大白倉婦人会
- 千手地区月例妊婦相談
- 大寒
- 二十日 消防幹部会
- 上野地区月例妊婦相談
- 二十四日 社会教育委員会議
- 二十八日 寺ヶ崎婦人会

# 町議会報告 I 一千八百万の大幅追加

## 三十七年度決算も認定

三十八年度最後の定例会は十二月十七日に招集、会期二日間で十八日閉会した。

この定例会のやまは①一千八百万に及び一般会計予算の追加更正②合計二億一千四百万に上る三十七年度各会計決算の認定③町職員百名から提出された給与改善に関する請願等にしようことができる。結果的にはいずれも全会一致で承認され、特に委員会付託継続審査と見られていた給与改善に関する請願も予想に反して即決採択となった。

ほかに、条例二件、専決処分報告一件と農業共済特別会計の追加更正一件があり、それぞれ可決または承認された。請願は給与改善に関するものほか二件で、それぞれ所管の常任委員会に付託され継続審査となった。

### 教育費に

#### 七百十五万

#### 初の本格的追加更正

三十八年度一般会計予算について全般にわたる本格的追加更正は今回が最初である。

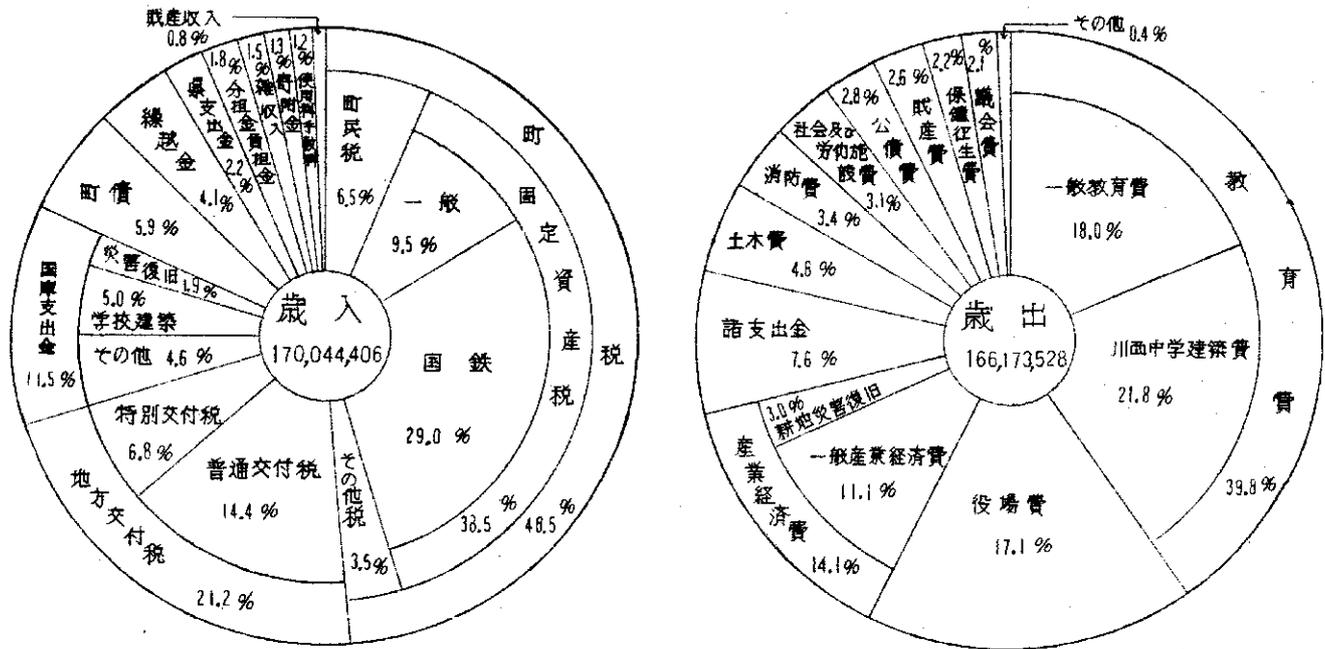
追加のおもなものは、何といっても学校関係で、これが今回の追加の半分を占めている。上野小屋体移築の三百十萬円、中仙田小学校舎増築費三百二十五萬、橋小使所改築の八十八萬追加等は当初予算当時から予想されたところで、これらを含めて教育費の追加は一千万以上となった。次いで土木費の四百八十五萬、産業経済費の三百五十八萬、諸支出金の八十一萬等があり、才出の追加総額は二千七百七十六萬となる。

これに対して財源のほうは、地方交付税九百萬、税の自然増二百十二萬、国庫費補助、使用料、地元負担金、町債等事業に伴う特定財源六百十七萬、繰越金九十七萬の合計千八百二十六萬で約三百五十萬の不足となる。このうち仙田中学校寄宿舎建築費五十萬は、中仙田小増築に伴う教室転用により、更正減額し、残る二百萬は川西中学校用地代を減額更正して収支のバランスをとった予算である。地方交付税の九百萬も、最初八百萬を予定していたところ、どうしても財源が足りないのだからに百万ふやしたもので、これだけは何としてももらわなければならないというきりきりの額である。

才出について内容のあらましは次のとおりである。

- ▽議会費 七萬の追加は食糧費五萬、議長交際費二萬である。
- ▽役場費 八十万円の追加は町長

## 普通会計歳入歳出決算額款別表



年度	歳入	歳出	総額
昭和32年度決算	62.7%	37.3%	99,748,873
33	53.2%	46.8%	109,563,618
34	62.6%	37.4%	105,926,438
35	56.2%	43.8%	118,703,491
36	48.6%	51.4%	140,264,168
37	49.8%	50.2%	166,173,518

▽交際費 四十七萬三千円の追加内訳は燃料費四萬六千円、食糧費三萬円、修繕料六萬円、その他一萬七千円の需用費と、白倉小学校水槽工事費三十二萬円である。

▽土木費 総額四百八十五萬四千六百円は、まず道路橋梁費に二百五十五萬八千六百円と災害復旧費に二百二十九萬六千円と大きく二分される。前者は、道路維持修繕費として仙田地区町道砂利敷代十二萬七千円、道路改良工事費として、神社町側溝新設四十四萬二千円、田中町側溝二十五萬三千円、桐山線改修七十七萬七千円、天王橋補強十五萬三千円等々町道関係二百四十一萬六千円と長岡横沢松代線中仙田地内改修負担金三十九萬円である。災害復旧費は、長福寺沢水系工事補助三十萬、南北沢工事補助四十五萬等を含む耕地災害復旧費二百八十八萬六千円と外に塩辛橋一萬円、需用費十萬円がある。

▽教育費 七百十五萬八千八百八十五円が追加の総額である。教育委員会費五十五萬二千五百七十円は仙田中生徒通学費補助十六萬九千四百八十円、同寄宿生補助七萬五千円、仙田中一分開校式費五萬八千七百七十円、中越地区視覚研究会七萬二千二百六十円外七件にのぼる委託料、桐谷校負担金その他である。

橋小学校費は使所改築費追加八十八萬六千円を含む修繕費と教材費等で合計百二十五萬五千二百四十五円。

中仙田小学校費は校舎増築費三百二十五萬五千円のほか備品費八

万七百七十円、修繕料八万七百六十円、ストーブ、電気工事等十七万四千五百二十円で合計三百五十九万一千五百円となる。

仙田小学校に教材費、賞給費その他で二十一万四千五百円。赤岩小学校は教材費一万九千六百円。白倉小中学校は教材費二十二万のほかにポンプ施設三万九千九百円、新大生受入費一万二千円で計二十七万四千九百三十円。

上野小学校費の三百三十七万八千二百十円は墨体移築費三百十萬五千円のほか、付属施設費十一万五千円、教材費十六万がある。

千手小学校費は六万五千六百八十円で需用費及び賞給費。

橋中学校費は四十四万七千五百七十円で視覚大会関係及び産振法に基づく教材費四十三万九千円が主体である。

仙田中学校費は寄宿舎建設費百五十万を更正減額し、教材費十一万六千四百円と差引して百三十八万三千六百四十円の減である。

川西中学校費七十四万二千円は教材費六十九万七千円のほか賞給費四万五千円がある。川西中学校建築費は用地代四百万を二百萬減額した更正予算である。

社会及労働施設費 社会福祉協議会委託料四万だけの追加である

保健衛生費 二十二万二千五百円は、浜海川流域におけるヒラリヤ検査の経費二万二千五百円、伝染病舎第二種負担金十萬、衛生推進員研修費十萬である。

産業経済費 三百五十八万七千五百八十四円と教育費、土木費に次ぐ額であるが、そのおもなものは、商工振興費の産業育成資金百

二万五千七百八十八円、農業振興費の養蚕振興費百三十二万九千九百九十六円等である。ほかに農業委員会費八万四千五百円、土地改良費三十九万、林業振興費十四万六千円等がある。

財産費 白倉の教員住宅補修費十萬八千九百八十五円である。

統計調査費 一万四千七百八十円で県費のトンネル予算である。

諸支出金 八十一万七千三百九十円。徴税費十八万六千七百四十円諸費六十三万四千円である。

その他予備費に十一万五千円を繰り入れて追加合計一千八百二十六万一千七百九円となり、一般会計の累計は一億六千八百六十七万二千五百三十三円となった。

**決算総額は 一億一千萬**

一般会計と六つの特別会計を合わせた昭和三十七年度決算の総額は、才入才出とも二億一千四百萬円を突破する額となった。これは三十六年度と比較して三千三百五十万ほどの増加となり、町財政の大きな伸びを示している。

この決算は、去る十一月十三日十四日の二日間に行われ、詳細な監査が行われ、その監査結果を付してこの定例会に提出されたものである。

各会計の決算額は次のとおり。

●一般会計  
才入 一四五五二、七九三円  
才出 一四一、三八一、九〇六円  
差引残額 三、八七〇、八八七円

●学校建築  
才入 一四、五二五、七九三円  
才出 一四、一三、八、九〇六円  
差引残額 三、八七〇、八八七円

才入 三、七〇一、四〇二、九二九円  
才出 三、七〇一、四〇二、九二九円  
差引残額 なし

●耕地災害復旧  
才入 五、〇二六、〇〇一円  
才出 五、〇二六、〇〇一円  
差引残額 なし

●国保  
才入 二、六六四、七〇〇、八八円  
才出 二、四六、一〇、三、八八円  
差引残額 二、〇三、五、九七〇、〇〇円

●千手診療所  
才入 八、八三三、一、一六円

**新年度予算で検討を約す 給与改善の請願を採択**

開会第二日目の十八日は、まず冒頭に五十八万四角の農業共済特別会計の追加更正予算を審議可決し、引きつづいて昭和三十七年度決算七件を上げ、それぞれ別項のとおり認定された。

最後に三件の請願が一括上程され、まず「田代岩瀬間農林道の町道認定方請願」を議題とし、これを社会土木委員会に付託、次いで「室島養蚕管理施設に関する請願」を産経委員会に付託、それぞれ継続審査とする旨決定したのち「川西町職員の給与改善に関する請願」の審議にはいり、職員組合関係からの傍聴者約二十名が注目する緊張した空気の中で審議が進められた。

請願の趣旨は、「他町村に比しきわめて低い町職員の給与を改善するため①在職期間に対する加算②給与条列、同施行規則特に「初任給基準・昇格に関する規則」の

才出 一、二三五、五六二、五五円  
差引不足額 三、五〇二、五〇九円

●橋診療所  
才入 一、一四七、五七九、四四円  
才出 一、四九一、一五〇、〇〇円  
差引不足額 三、四三三、五七〇、五六円

以上七つの会計について繰り入れ繰り出しの関係を示し引きしれた総計は次のとおりである。

●三十七年度決算総額  
才入 二、一四一、九七、七、四四円  
才出 二、一四一、五八、四、〇五円  
差引残額 三、九三三、九、四九円

整備と④その実施に伴う全職員の手給料是正⑤超勤手当の完全支給、宿日直手当等の諸手当及び旅費の引き上げ⑥国庫費負担事業が人件費を圧迫しないよう配慮する、等の措置を講じていただきたい。

というものである。この請願は町職員延百名からそれぞれ同趣旨のものが出されておられ、これに署名した家族その他の協賛者は四百二十一名、紹介議員は合計二十二名となっている。

このように形式、内容ともに異例の請願であるだけに「これはむしる請願以前の問題であり、町長対職員の間で解決すべきであって、このような取り上げ方には疑問があるのではないか。」といった懐疑的な発言もあった。しかし、全体としては、「町職員の給与が低いことは事実であり、ここに掲げた要求の全部が妥当であるとは認めがたいけれども、職員から希望

を持って働いてもらうためには、この際これを真剣に取り上げて前向きな姿勢で解決すべきだ。」という意見が大勢を占め、この問題に対する町長の方針並びに財源の見直し等に審議の焦点が向けられた。

これに対して中村町長の見解を要約すると次のとおりである。

①町長自身職員に十分な給与を払っているとは思っていない。薄給に甘んじてよく働いてくれているのであってやらなければならぬという気持は十分もっているが、問題は財源をどうするかということだ。

②給与というものは、やはりその人その人によって別々に決定すべきものであり、町村によってそれぞれ特殊性があるが、法律や条例はそういう面についてまで考慮されてはいない。

③学歴・前歴についてもそれぞれ目安はあるので、実情に合うよう考慮したい。ただし、前歴については加算してよいものとするでなく、あるもので、たとえば兵役についても一律に加算するわけにはいかない。

④人事院勧告によってベースアップする分は国から交付税が来るので、それを充当するつもりだが、それとは別に、安い分を上げてくれという財源が問題なのであって、そのために他の事業をキセイにするようなことをしてはならない。

⑤したがって三十八年度において低給与を是正することは困難であるから、これは今から真剣に取り組んで三十九年度予算で考えていかねばならない。

⑥この問題について議会で個々の

給与について検討することは適当でないのでは、議会としては総合的な勧告程度に止めてもらいたい。⑦身分に関する条例等、制度の問題については議会の委員会等で研究してもらいたい、その結論とありにはできないかも知れない。

**七日に 初の臨時会**

ことしの初議会は一月七日に招集され、次の案件を審議した。

●専決処分報告 取安川災害復旧に伴う起債に関する専決処分三件

●川西町一般職の職員の給与に関する条例の一部改正、人事院勧告による六七パーセントベースアップするための改正。

●固定資産評価審査委員会委員の選任同意、委員丸山豊太郎氏の死亡に伴い後任委員として丸山英一氏(原田)が選任された。

以上のはか「中村町長の進退問題について」「昭和三十九年度一般会計才入見込みについて」等について報告、協議が行なわれた。

**国体を迎えた 年です美しく**

本腰入れて町づくりを

川西町議会議長 南 雲 章



川西町誕生後八年目の輝かしい新春を迎えるに当たり、町民各位のご健康とご多幸を心からお祈り申し上げます。

昭和三十一年度も、前年度以上に財政的にも、また建設的にも重要問題が山積しております。

本年度から政府の減税措置による税制改正に伴い、住民税の課税方式が従来の但し書き方式から本分方式に改められる機運にあります

過ぎ去った一カ年をかえりみまするに、国際的にも、また国内的にもきわめて多事多端の連続であったという感を深くするのであります。

川西町の経済構造はいままでもなく農業が主体であります。したがって町政の重点も、農業振興を主軸とした商工活動の循環的振興策を効果的に配慮することが望ましいのであります。

戸籍の窓から

うぶ声—御すこやかに

- 上原 勝一 忠二 長男 中島町
佐藤 真澄 喜芳 長女 仁田
小幡 直子 定二 長女 仁田
和久井 喜代子 好古 二女 木落
根津 浩 健治郎 長男 原野
富井 いつ子 勇 長女 上野
小島 三枝子 正利 二女 新町新田
渡辺 弘子 三九二 二女 新町新田
片桐 晴好 武治 長男 大白倉
長谷川 孝久 清一 二男 赤谷
田村 優子 忠平 四女 室島

昇天—御めい福を祈る

- 清水 ハル 木 落 八一
関口 福松 神社町 六一

たかき—御円満に

- 丸山 増一 木島
坪田 よし江 東京から
羽鳥 徳二 伊友
羽鳥 ヒサ 伊友から
丸山 清 高原田
丸山 絃子 新座から
丸山 絃子 高原田
春日キヨ子 樽 沢から

競技種目の解説

十月十日からオリンピック東京大会が行なわれることは国民のすべてが周知のとおりですが、その競技種目や内容についてはよく理解されていないものが数多くあると思われ、今この機会に、その解説を続けてみたい。なお、この解説はオリンピッククワイアリーより抜粋いたしましたので新編団体とともに参考にしてください。ただし、幸甚です。

オリンピック東京大会

陸上競技には、オリピックの陸上競技には、

- 新 田村 重正 鶴吉
新 進藤ハルイ 真人町から
新 滋野 正治 野口から
新 滋野 勲 野口から
新 渡辺 幸雄 野口から
新 丸山 政子 仁田
新 藤原 芳信 仁田
新 高橋スマ子 坪山から
新 上村 達平 上野
新 清水 ハル 中屋敷から
新 内山 重義 新町新田
新 田口 君江 木落から
新 墨名 力男 代
新 墨名 トキ 代
新 高橋喜代作 高倉
新 相崎タケヨ 沖立から
新 佐藤 助松 鷺谷
新 羽鳥 静江 貝野から
新 南雲 繁 中仙田
新 柳 セツ 山谷から
新 高崎 正弘 学校町
新 児玉 敦子 稲葉から

- 男子
一〇〇M・二〇〇M・四〇〇M
・八〇〇M・一五〇〇M・五〇〇M
・一〇〇〇M・一〇〇〇M
・四〇〇M及び一六〇〇M
・マラソン(四二・九五KM)
二〇K及び五〇K競歩・走り高とび・走り高とび・三段とび・棒高とび・砲丸投げ・円盤投げ・やり投げ・ハンマー投げ・十種競技。
(女子)
一〇〇M・二〇〇M・四〇〇M
・八〇〇M・一五〇〇M・五〇〇M
・一〇〇〇M・一〇〇〇M
・四〇〇M及び一六〇〇M
・マラソン(四二・九五KM)
二〇K及び五〇K競歩・走り高とび・走り高とび・三段とび・棒高とび・砲丸投げ・円盤投げ・やり投げ・ハンマー投げ・十種競技。
(次号は体操)

# 日本一うまい米づくり

## …米価と収量の移り変わり…

東京米穀新聞による三十七年産米後期の評判をのぞいてみました。これは食糧庁が実施している東京関係の産地別、品種別、格差調査で、三等玄米について約百四十軒の小売店の結果を集めたものだそう。食味、歩留り、外觀の三点による評価で、格差別にあけると、ササシグレ(宮城、岩手、山形)次いでコシヒカリ(新潟、栃木、千葉)ハツニシキ(岩手、秋田)越路早生の順だったようです。このように東北、関東方面でのうまい米づくりもかなり積極的で、本県のコシヒカリ、越路早生の地位も安泰とはかりは言えない状態です。

### 安定多収

#### さてその次は

本県では知事さんの発案で、昭和三十七年に「日本一うまい米づくり」県民運動を提唱し、全国に先駆けて消費者の皆さんから喜ばれ、愛される新潟米を作り上げようとの錦の御旗を掲げたことは、農業生産物の七割以上を占める本県の農業施策としては当然の理と言えましょう。しかしこれは何も「うまい米」を作って事足りりとするものではなく、まず基幹作物たる稲作の合理化によってのみ、農業の生産性向上が約束されるものと期待する表われとも言えるでしょう。

よく昔からものの値段の尺度に、お米の価格が用いられたが、今日の高度経済成長政策によるレジャーブーム、所得倍増時代に果して当はまるかどうか。今から大体三百年前、徳川家康が江戸城へ移った当時のお米一俵は約一円と言われた。その後元禄年間一時的に四円ぐらいたったこともありましたが、徳川時代の米価は大凶作のため餓死する者が出たり、百姓一揆なども頻発しましたが、こと米価に関しては、三百年の間を推しおおむね泰平な世の中だったと言えます。明治維新を迎えても格別の変動はみられませんが、年間に於ける価格相場の変動が極端になり、明治八年の如きは一円五十銭だった米価が一時的ながら三円五十銭をうまわたりして、経済状況の変化や豊凶の差などを敏感に反映する傾向が表われてきました。以後漸次価格も上昇気運、三十年代から引き続き三円台を突破して、時代とともに上昇を続け大正半ばごろの三十四円、また昭和五年の大豊作によって、当時は六円あるいはそ

### ものの値段の尺度というけれど

れ以下にまで暴落した。その後昭和十七年に食糧管理法が出るまで、ほぼ順調に経過しましたが、この間、経済の進展に伴い銘柄取引が活発化し、一俵当たり二十銭上りの高値を呼んだ品種もありました。そしてあの戦中、戦後の極端な食糧難時代を経て再び銘柄格差が話題とされる時代がやってきて、昭和三十五年産米の農家手取り額は一石当たり一万円を突破するにいたりしました。

### 他をひきはなす 伸長率(米価)

では収穫量ほどのように推移してきたでしょうか。新潟県の資料によれば、明治初期のころ水稲作は面積は約十五万五千町歩、現在は面積は十九万町歩とわすか二倍の増に対し、収量は当時反当一石一斗が昭和三十七年、遂に待望の平均反収三石の線に到着することができました。つまりこの百年間に反収は三倍に伸びた訳です。ついでに反収の伸び率を少し検討してみると、反収が二石台に到達したのは昭和十年ごろの事でこの間実に六十余年もかかりました。それ以来特に最近の増収率はまことに目をみはるべきものがあります。全国的にみて新潟米の占める比重はどうだろうか、日清戦争のころ、全国の米の生産額は約四千万石、新潟県の生産額は約六パーセントに当たる二百四十万石程度でありました。史上最高と言われた昭和三十七年には実に

### 年頭の決意

雪のない、静かな年の明けだった。また新しい年がめぐってきた。このように、子どものころのうれしさや楽しさが年ごとにうすれ、何となくむなし正月になってゆくような気がする。こんな感慨にひたること自体が、古い人間になりかけたからなのだろうか。

ともあれ、ここの二年の正月ムードはたしかに変わった。羽根つきやタコ上げをする子どもたちの姿が目につかない。ときたま、年始の客が行きかつかうは、鎮守様にも、原っぱにも、正月らしく遊ぶわらわちをあまり見かけなかった。

カルタ取りでもしているのかと思えばそうでもなく、家中がコタ

の面積は十九万町歩とわすか二倍の増に対し、収量は当時反当一石一斗が昭和三十七年、遂に待望の平均反収三石の線に到着することができました。つまりこの百年間に反収は三倍に伸びた訳です。ついでに反収の伸び率を少し検討してみると、反収が二石台に到達したのは昭和十年ごろの事でこの間実に六十余年もかかりました。それ以来特に最近の増収率はまことに目をみはるべきものがあります。全国的にみて新潟米の占める比重はどうだろうか、日清戦争のころ、全国の米の生産額は約四千万石、新潟県の生産額は約六パーセントに当たる二百四十万石程度でありました。史上最高と言われた昭和三十七年には実に

五百七十万石を超え、全国実収高の八千五百万石に対して六七パーセントの割合を占めております。平均反収では本県は明治以降、昭和初期までの間豊凶によって若干の差こそあったが、一斗は少なかった。しかし昭和六十七年ころから全国レベルを追い抜き、最近ではおおむね全国平均を二斗ぐらいうまわまるようになっていきました。川西町ではどうでしょうか。統計では二石九斗弱と県の平均には若干及びみませんでした。が郡内では最高で、全国平均の二石七斗をはるかにしのぐ収量であります。このように明治初期との比較では、反収は三倍、米価は実に二十倍に達しました。この数字は他産米のそれと比べて劣るものでなく

### 生産性がガン

米価の伸びは他に比類がない。それにもかかわらず農家経済を苦しみに追いやわっている一つの原因に生産性の問題が考えられます。残念ながらこの方面は他産米に数十年のおくれをとってはいまいか、最近の調査で、町は三軒に一台の割合で耕運機ははいていますが、一台の耕運機は年間に田畑を耕してもわずか二町歩ぐらしか耕していません。これではいくら米価が二千倍になっても到底追いつけません。せいかくうまい米を作っても、また米価を大巾に引き上げない限りまだまだ消費者から喜んではいたたけない。

### 社会教育

子どもたちの楽しい正月を、せいかくの正月を、

ツをかこみ、目をサラのようにしてテレビに入っていた。子どもたちにとってははげしく楽しいうれい正月であったにちがいないとは思ったが、

れには思えないでテレビに見入る父母、子どもはわびしくねむってしまふ。ではいけない。プラトンのいう知・情・意に満ちた人間形成のために、寝ものがたりがはかりしれない役割を果たして、くわを銘記すべきであろう。おとなの見かたにも問題がある。正月の番組を例にとっても、何かバラエティやグラウンドシヨウなどの聴視者が

この一年、テレビは破竹の勢いで普及した。戦後の、あのラジオの普及率など物の比ではない。生活文化の向上はおおおいにこうだが、楽しみにだけにはチャンネルを合わせてもらいたくない。せめて一週間に一度、たとえ三十分でもよいから教養番組を見ることをつけてほしい。年頭の決意に、①子どもの夢を育てること、②テレビを教育的に活用すること、の二点をセビ加えていただきたい。(失言お許しあれ)

考古遺跡のあらまし……(2)

上野地区

一本杉遺跡
元町の裏山、通称一本杉といわれる。ゆるやかに傾斜した畑の中にある。

縄文中期の終りから後期の初めにかけての遺物が多いようですが、縄文時代の最も古いころに作られた、とんがり底の一部分も発見されています。

二子遺跡

数年前、開墾したときに発見された遺跡で、広さや遺物の数は、町内随一の大きな規模をもっているようです。

土器は、中期の初めから晩期にいたるまで永い期間にわたって、人間が生活していたらしく、いろいろなものがみつかっています。

土偶、土びん形の壺、石皿、石棒、おもり石、やじり、石斧など多形ですが、なかでも珍らしいのは、数十メートルの広さにわたって石を敷きつめた配石遺構が発見されていることです。

中子型組石群遺跡と名づけられていますが、何のために作られたのか、またはほりしていません。

一説には、古代人がお祭りをすゝめるための祭壇の一種であるとか、あるいは、共同の墓地ではないかともいわれています。

ここから出た遺物は、名塚春二さんと、富井源蔵さんが所蔵しておられます。

三子北遺跡
中子遺跡の北側の台地上にある

遺跡で、縄文早期の古い土器をはじめ、中期、後期のものを名塚春二さんが採集しておられます。

四品ノ木田遺跡
下原地内品ノ木田の水田と畑のなかにあります。

縄文前期の土器のほかに、数万年もの前と思われる無土器時代のグレイバー(彫刻刀)が一個発見されています。川西町では最も古い時代のものではないでしょうか。

五小根岸弁天社遺跡

小根岸の弁天社の境内の林のなかにあって、今から二千年ばかり前の弥生時代の遺跡です。

川西町では、今のところ、弥生式土器の出る遺跡としては唯一のものだと思われる

橘地区

二原田遺跡
根深の北方、標高約一五〇メートルの水田のなかにあり

数年前丸山精二郎さんが暗渠排水工事をやったとき、多量の土器と石器が発見されたものです。

縄文後期の代表的な遺跡でここに住居の址があったのでしよう。遺物は橘中学校に保管されています。

二野口遺跡

野口の裏の段丘上、タバコ畑のなかにあります。縄文後期のものが多いようです。

三原遺跡

野口遺跡と、貯水池をへだてた北側の崖に近い畑のなかで、早期から晩期にいたるまでの各時代の遺物が発見されています。昔の人が住むのにかっこうな場所だったのでしよう。

ふるさとをさぐる

どうぞよろしく

わたしがマイクロボス

「と一」



わたくしの名は川西町患者輸送車と申します。生まれは京都で十二月二十六日に北陸を通過して新潟市にまいりました。二十七日にはコワイおじさんに上や横、ハズカシイの下からまでのぞかれて検査を受けました。自信はありましたが合格して「と一」の記番号をもらったときはホッとしたのでして休むひまもなくこんどは役場のおじさんに連れられて新潟を出発したのが午後三時、雪の中を川西町に着いたのは夜の十二時でした。これからは町民の皆さんからかわいがっていただくため大いに働きたいと思っておりますのでよろしくおねがいいたします。でもわたしが雪になれないため三カ月も車庫の中で寝ているなんてちょっとなじみになります

民生委員が一部改選

中村さんが退任
大久保さんが退任
民生委員として永年勤続、地域福祉に業績のあった中村直治さん(坪山)と大久保武義さん(野口)のおふたりが十二月十六日付で退任された。

後任として中村由蔵さん(坪山)霜条・鶴吉・平見担当) 滋野薫良さん(野口担当) からそれぞれご活躍いたたくことになった。

退任された中村さんは勤続十四年、その間、清竜寺季節保育所の開設、山ノ根老人クラブの設立等に力を尽くされた。また大久保さんも勤続十年に及び、北田季節保育所の設置にのみならず

国保運営

協議会長決まる
国保運営協議会は十二月六日に改選後の初協議会を開催し、保険料の軽減その他について協議されたが協議会長及び会長代理は次のとおり互選された。

協議会長 保坂長雄
会長代理 小林与作

依岡先生
橋診療所に転任
橋診療所依岡先生が橋診療所に転任、診療を開始いたしましたのでお知らせいたします。

休日配達はや
千手地区では春から商店の休日を毎月十八日に定め、実施しております。わたしは商人ですので買物客や電話で〇〇を持ってこいといわれればいやともいえず内心おもしろくなくても、そのたびに配達をしてみました。しかし、せっかくの休日をそつした心ないお客さまの電話や買物のために一日つぶれてしまつてゆくり休めません。

町の声
聞くところによると農家では農休日が設けられていてその日は部落全員で休んでいるとか、どうか商人の月一回の休日をお互いさまゆくりからたを休める日にしたいものです。(千手 一女性)

かわにし俳壇

太田白南風選

元町 小林華洲
増産の儀編より事初め
初孫の産着揃へて年迎ふ
千手 清水紀風
五六丁歩いて傘の雪重し
冬囲いすませて母の誕生日

牛小原のワラ入れ替えて年迎う
越冬のマキ玄關を塞ぎ積み
和歌山にて 金子洋石
初空へ柏手強き食しき掌
元町 金子鉄平
歳末の小旗のゆるる広小路
小白倉 江口凡石
金銀波海ひろびろと初明り

あけましておめでとう
ごさいます。
毎年頭くりかえす言葉ながら心あらたまるものがあります。
旧年は国際情勢、国内また町内とも多事多難な年でありました。東京オリンピック、新潟国体をもって象せられる新しい年が明るく、すこやかな年であることを願ってやみません。

スポーツ人口という言葉がある
そうです。厚く広いスポーツ人口の中からすぐれた選手が出るというのです。川西町の小学生、中学生は県下でもすぐれた選手が多いのですが大成した話を聞きません。おとなになったらスポーツと縁遠い環境でなしに、この年を期にスポーツの町なんぞいう夢もえがくべきではないでしょうか。

編集後記
あけましておめでとう
ごさいます。
毎年頭くりかえす言葉ながら心あらたまるものがあります。
旧年は国際情勢、国内また町内とも多事多難な年でありました。東京オリンピック、新潟国体をもって象せられる新しい年が明るく、すこやかな年であることを願ってやみません。

あけましておめでとう
ごさいます。
毎年頭くりかえす言葉ながら心あらたまるものがあります。
旧年は国際情勢、国内また町内とも多事多難な年でありました。東京オリンピック、新潟国体をもって象せられる新しい年が明るく、すこやかな年であることを願ってやみません。